

## 「利根川水系小貝川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：令和元年 12 月 1 日（日） 11:00～11:20

場 所：国道交通省関東地方整備局下館河川事務所

発言者：公述人 4

おはようございます。

利根川水系小貝川整備計画に対する意見募集ということでしたので、そんな中、昭和 61 年の小貝川決壊のときの消防団員の一経験者として、当時の活動と、また、去る 11 月の台風 19 号での活動を通しての思ったことなどをお話ししたいと思います。

私、現在、常総市、旧石下町に居住しておりますと申します。よろしくお願ひします。

あの小貝川決壊当時は、294 号バイパスがまだ未完成のときで、ちょうど今の東京インテリアの交差点の一つ南のところとどまっている状態でした、折しも江連用水が工事中のとき、そして、あの台風の長雨でありましたため、その辺が冠水いたしまして、消防団員、あのころで、ちょうど地元で 3 台ですか、ポンプで排水作業に当たれということで現地に向かったわけですが、ちょうどその場所の 1 軒のお宅が床下浸水でございました。そんな中、排水作業を行っていたわけですが、そんな中で今度は旧石下町の本当に北で、東側の小貝川のところでちょうど漏水が始まったという連絡が入ったわけですが、私たちも、当時、その場所から離れられなかったんですが、そっちの地元の分団で月の輪を二、三カ所施したということでございました。

後日のお話ですが、豊田地区、先ほども上郷さんのほうでもお話があったようですが、シートパイル等を打っていただいたおかげで、以前は小貝川の水位が上がると堤防の外側に水がたまって、ちょっとした沼のようになっていたそうですが、現在は、その兆候は完全になくなったと聞いております。

また、平成 27 年 9 月の関東豪雨の際の鬼怒川溢水や決壊に対しては、前日の夜中から出動し、対策本部に務め、避難勧告・避難指示を発令し、現場にも指示をいたしました。明けて午後 1 時前、鬼怒川のまさに決壊の現場を、ちょうど決壊したちょっと本当にすぐ近くに関東鉄道の跨線橋がありまして、それを跨線橋から眺めておりました。眺めていたというのはちょっと語弊がありますが。すると、ちょうど決壊いたしまして、この水が、本当に西から東へ真っすぐ大量の水が流れ出しまして、「あ、これでは町内に帰れないな」と思いまして、そこから急遽、今で言えば 61 年の決壊場所の小貝川の堤防まで避難したわけです。そうすると、その途中ですが、もう八間堀川等は全然水面が天端まで来ておまして、その天端も、決壊現場のところへ位置したときには、もう道路も冠水しておりました。そんな中、やはり車が通れないのか、葬式の方々が、お坊さんを初め、遺骨を抱いた人、そして遺族の人が、結構大勢の人が小貝川の堤防の天端を歩いてきたという、そんなこともございました。

そんな中、本当に堤防から見ていると、避難救助のヘリコプター、また、報道のヘリコプターが本当に赤とんぼのように大勢ぶんぶん飛んでいるのが、本当に鮮明に覚えております。そのときは、たしか、先ほどもありましたように、旧石下の消防ポンプも、たしかつくば市のほうへ逃げてというか、行って、そっちで交通整理等を行ったと聞いております。

それで夕方、西地区は大丈夫だということで、下妻の千代川の愛国橋まで小貝川の堤防をずっと戻って、それで旧 294 号をまた南下しようと思ったら、やはり千代川村の皆葉あたりで冠水していましたの

で、「あ、やっぱりこれは通れない」ということで、大形橋を戻って、大形橋から西地区へ戻り、それで食事をとった覚えがあります。

それで、10時ごろですか、一旦様子を見ながら戻ろうということで、石下の旧橋を渡ってきましたが、旧294号は、もう水はなかったんですが、石下駅からのいわゆる駅通り、西に向かったの道路はまだ冠水しておりました。そんなところを見て、仕方がないということで、関東鉄道のやはり跨線橋ですか、それを東に渡ると、ちょうどそこまで冠水していて、自衛隊がちょうどボートの発着場にしておるところでございました。それからまた戻って、仕方がないので、私、東地区が住居なものですから、常陽銀行の石下支店から歩いて家へ帰ったわけですが、ずっと、私でちょうど腰まで水があった中を帰った覚えがあります。

そんな経験をして、この間の台風19号が来たわけですが、鬼怒川は緊急プロジェクトで堤防整備が進み、難を逃れたということになりましたが、それでも後から見るとかさ上げをしたところまで水が来たというのがうかがわれました。もし工事が進んでいなければ、やっぱり4年前の再来だったのかなと思うと、本当にぞっとした思いであります。

鬼怒川の整備後は、天端の道路も拡張され、工事の過程で河川敷もかなり整備されたと思います。一方、小貝川で言えば、決壊後30年たった今、そんなに変わったというところが見られないところがございます。小貝川は昔から蛇行が多く、水の増水が遅く、また、引きも遅いです。水防団待機水位等の規則があり、そのたびに、日夜、日曜・祭日を問わず団員は出勤します。19号のときも、鬼怒川の水位が下がり、小貝川も上郷の観測所での水位が下がっても、大和橋付近の水位は一向に下がりませんでした。そんな距離でもないのに、なぜ下らないんだろうと、かなりいらいらもしました。

素人考えですが、小貝川が蛇行が多く、川幅の割に河川敷の樹木が多過ぎると思います。まるで本当に森のごようございませぬ。あれでは流れが悪いのは容易に察しがつきます。また、川底の勾配もないんじゃないかと思われませぬ。だから水位の下がりが悪いのかなと思われませぬ。

19号のとき、菅生調整池を見回りました。かなりの広さで、ご承知でしょうけども、坂東から芽吹橋に向かって左側が調整池なわけですが、かなりの水が、利根川の水をそこで受けておりました。今回は多くて、37年ぶりだったか、そのぐらいの経験で、何件かが床上浸水になったわけでございますが、ちょっと考えると、小貝川にも母子島の遊水池があると思います。本当に、その遊水池がどのように使われているのかというのが、ちょっと我々にはわかりませぬけども、例えば今回のように、決壊しなくても、水位がふえた何だって、今回だけでなく、その母子島の遊水池をもっと素早く水を逃がすとかなんとかという対処ができないんだろうかという思いでございます。

とにかく私たちは、利根川、鬼怒川、両方を抱えた土地に住んでおります。100%の水の安全はないと思われませぬけども、とにかく関係者の皆さんには、鬼怒川同様、小貝川の日も早い河川整備をお願いいたしまして、まとまりのない話でしたが、私の意見とさせていただきます。どうもありがとうございました。